

5. 急性期医療機関における脳卒中患者在院期間の推移

リハビリテーション科学

飯田真佐夫, 澁谷健一郎, 島袋久弥, 吉田健哉, 鈴木大雅, 古市照人

【目的】2000年度から回復期リハビリ病床が新設され在院日数が急性期医療機関で短縮している。6年間で在院日数, 転帰先, リハ開始時・退院時 Barthel Index 等の変化を明らかにすることにあり。

【方法, 対象】当科に1999年度(診療報酬制度の制限を受けていない)と2005年度に脳卒中(脳梗塞, 脳出血, くも膜下出血)にて入院した患者について在院日数, 転帰先, Barthel Index を中心に分析した。

【結果】1. 転帰先

1) 両年度とも自宅が転院より有意に在院期間が短かった。

2) 99年度の平均在院日数は63.2日で05年度は38.4日で有意に短縮していた。

3) 99年度は自宅退院率が63%で05年度は転院率が55%で有意な変化があった。

2. Barthel Index (B.I) を使った検討

1) 99年度で64才以下が高齢者より退院時B.Iが高かった。

2) 99年度はリハ開始時B.Iが40.3で05年は27.9で有意に低かったが, 退院時B.Iは変わらなかった。

【結語】99年度と05年度を比較すると在院日数が約2/3に短縮されていたが, 2005年度のリハ開始時B.Iは重症であったにもかかわらず退院時のB.Iは同等になっていた。

医療制度の変更による影響が大きいものと考えられた。

6. 大腸癌における chemokine SDF-1 α 及び chemokine receptor CXCR4 発現に関する免疫組織学的検討

病理学 (人体分子)

吉竹直人, 福井広一, 藤井茂彦, 山岸秀嗣, 関川 昭, 市川一仁, 富田茂樹, 井村穰二, 藤盛孝博

【目的】Stromal cell-derived factor (SDF)-1 α 及びその受容体である CXCR4 はリンパ系を中心に様々な免疫反応に重要である。近年, 癌細胞にも CXCR4 の発現が認められ, 癌の浸潤や転移に関与することが注目されている。そこで本研究では, 大腸癌における CXCR4 及び SDF-1 α の発現を検討し, 臨床病理学的特徴との関連を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】大腸癌 60 例を対象に, CXCR4 及び SDF-1 α の発現を免疫染色法で評価し, 臨床病理学的因子との関連を解析した。

【成績】大腸癌先進部における SDF-1 α 及び CXCR4 発現はリンパ管侵襲, リンパ節転移, 病期, 5年生存率と有意に相関を認めた。また, CXCR4 発現パターンは nuclear type と cytomembrane type に分けることができ, nuclear type は cytomembrane type よりも低分化, 高病期, リンパ節転移陽性であった。

【結語】大腸癌において SDF-1 α 及び CXCR4 発現はリンパ節転移や予後不良と深く相関し, さらに, nuclear type CXCR4 発現はリンパ節転移を予期する上で重要と考えられた。